

【ヤクシカの季節移動等の行動圏の把握】

1. 実施目的

屋久島の奥岳等の高標高地域においてヤクシカに発信機を取り付け、奥岳地域のヤクシカの行動圏や季節移動について GIS を用いて解析することを目的とした。

2. 実施概要

(1) 実施時期 9 月 14 日～11 月 18 日

(2) 実施箇所 屋久島の標高 1500m 以上の高標高地域とし、ヤクシカの出没状況や登山客の入山状況も含め安全性等の状況に合わせて調整した。(図 1)

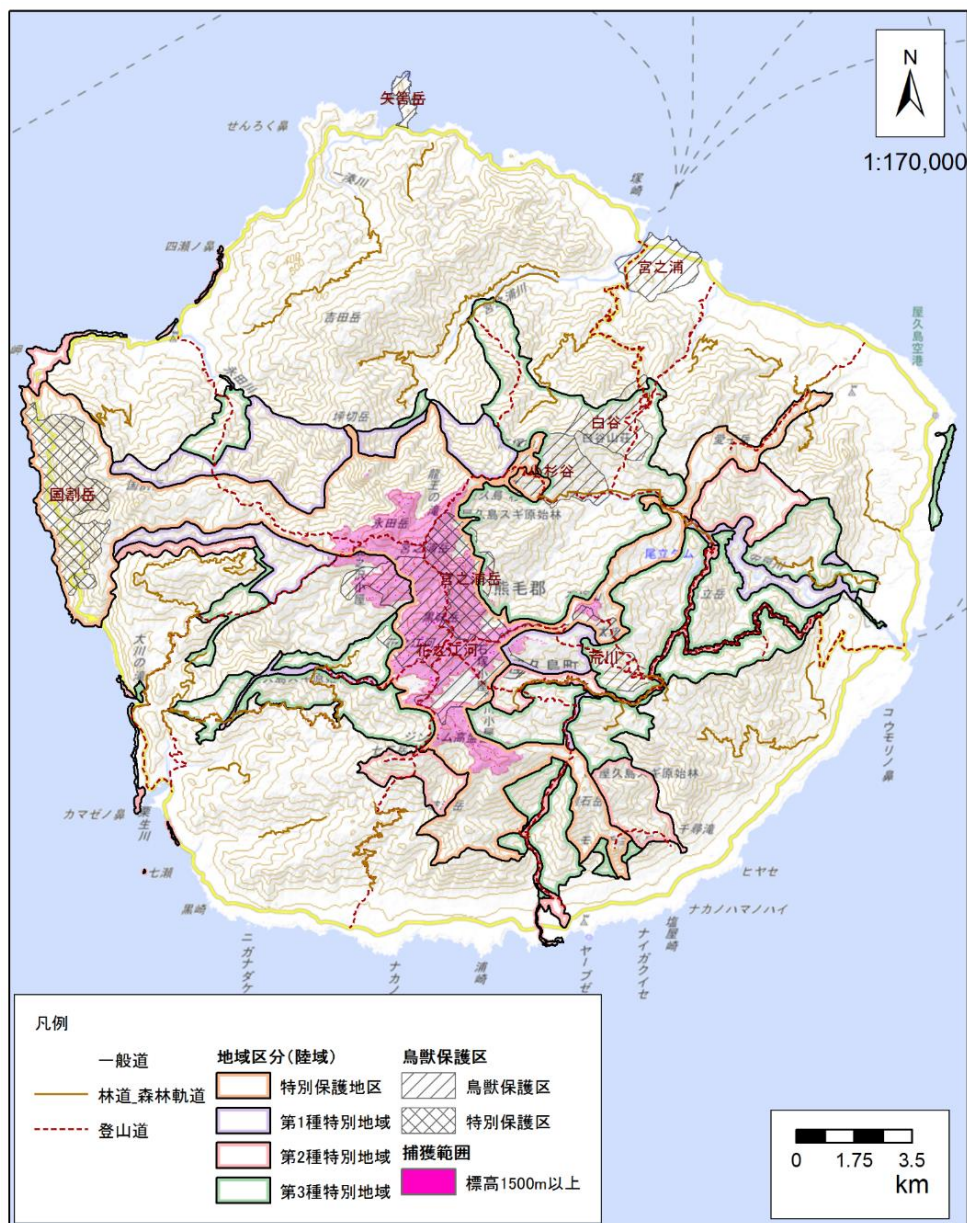


図 1 ヤクシカの季節移動等の行動圏の把握の実施箇所

(3) 実施方法

対象は異なる群れの個体と考えられるメスとし、3 頭を目標とした。

麻酔銃を用い、ヤクシカの出没を待つ忍び型と、登山道を歩行して遭遇したヤクシカを捕獲する遭遇型により不動化を実施した。なお、4 地点でアルファルファペレットを用いた誘引を行った。

麻酔薬の薬効が現れる約 10 分後より探索し、不動化したヤクシカの写真を撮影し、性別、年齢、体長、体高、後足長、胸囲を計測・記録して、GPS 首輪・耳標を装着した後に放獣した。

放獣したシカの位置情報は衛星によるデータ収集（測位時間 2 時間ごと）を行った。

3. 実施結果

(1) 実施状況の概要

計 44 日間の踏査及び捕獲作業を実施した（エラー！ブックマークが自己参照を行っていません。）。踏査ルートと踏査により選定した捕獲候補地の位置を図〇に示す。捕獲候補地はヤクシカの糞や食痕等の痕跡が多く見られ、麻酔銃による射撃が可能な空間が開けた場所であり、重点的に捕獲作業を実施した。特に日中においても登山道付近で姿や移動時の気配が多かったのは、平石岩屋の平石 1、坊主岩付近の平石 2、3、投石岳周辺の投石 1、2 であった。

表 1 実施状況の概要

調査回	調査日	日数	実施内容
1	2018/9/14	1	花之江河周辺の現地確認
	2018/9/15	1	永田岳周辺、平石・宮之浦岳周辺の現地確認
	2018/9/17～18	2	花之江河周辺で麻酔銃による捕獲作業
	2018/9/19～21	3	永田岳周辺で麻酔銃による捕獲作業
	2018/9/22～27	5	花之江河周辺で麻酔銃による捕獲作業、淀川小屋～花之江河の標高 1500m 地点付近で餌による誘引と捕獲作業実施 22 日に小花之江河で親子と遭遇するが、登山者の集団と重なり、逃げられる。
2	2018/10/18～29	11	花之江河周辺で麻酔銃による捕獲作業、淀川小屋～花之江河の標高 1500m 地点付近で餌による誘引と捕獲作業実施
	2018/10/30～31	11	投石岳～翁岳周辺で麻酔銃による捕獲作業
	2018/11/1～5	5	焼野～平石周辺で麻酔銃による捕獲作業。5 日に♀幼獣を 1 頭捕獲
	2018/11/6	1	花之江河周辺で麻酔銃による捕獲作業 湯泊歩道の状況を確認
	2018/11/7	1	投石岳～翁岳周辺で麻酔銃による捕獲作業 投石岳～安房岳の鞍部で♀成獣を 1 頭捕獲
3	2018/11/16～18	3	永田岳周辺で麻酔銃による捕獲作業 鹿之沢小屋で宿泊

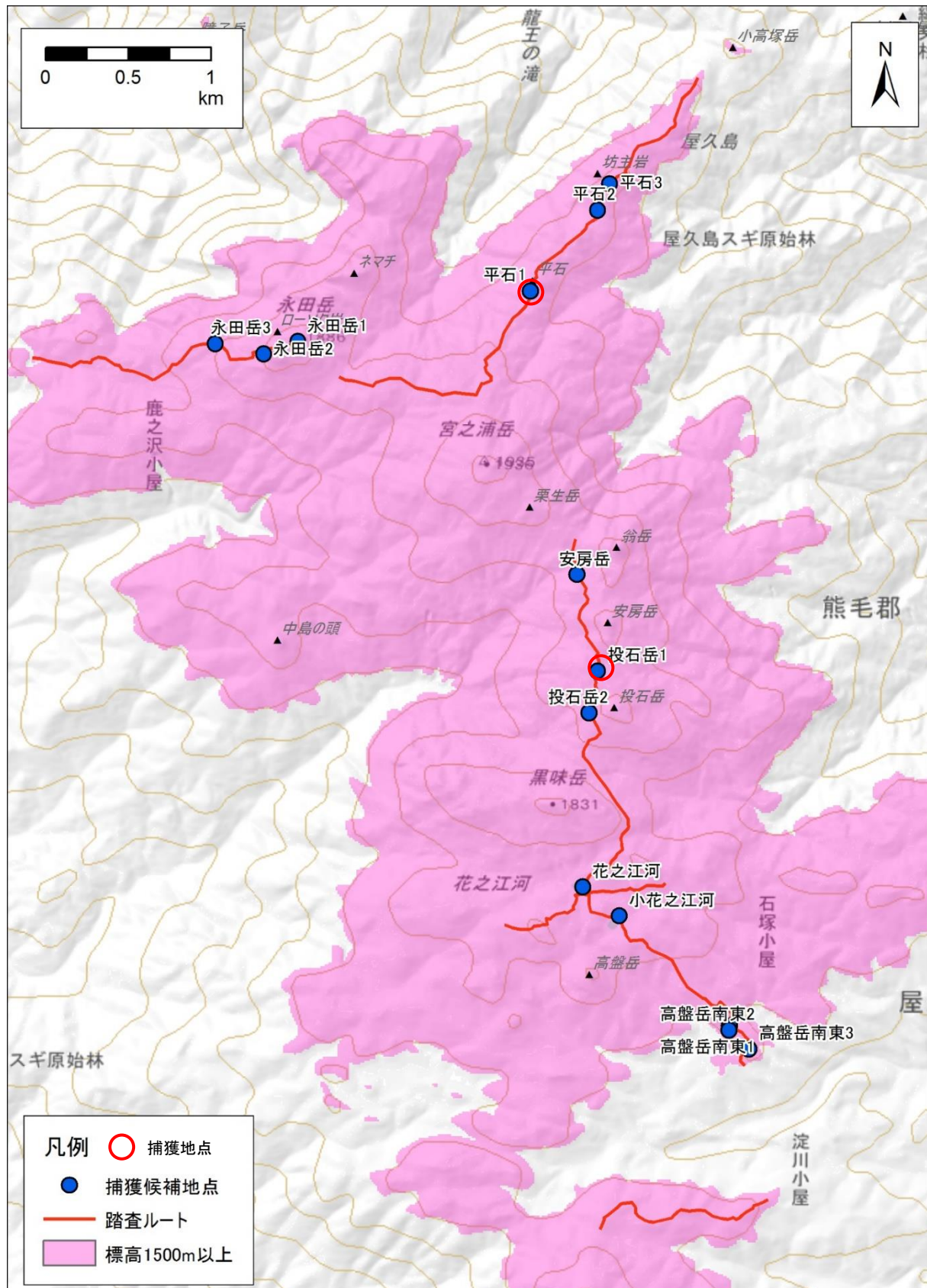


図 2 踏査ルート及び捕獲候補地の位置

(2) GPS 首輪装着個体の概要

捕獲個体の特徴を表 2 に、捕獲地点を図 11 に示す。

いずれの捕獲地点も現存植生はヤクシマダケ群集とヤクシマシャクナゲミヤマビャクシン群集、ヒメヒサカキースギ群集の境界付近であった。

表 2 GPS 首輪装着個体の特徴

個体番号 耳標番号	捕獲日	捕獲地点	性別	年齢	体長 (cm)	体高 (cm)	胸囲 (cm)	後足長(cm)	
								左	右
H30_01_FM オレンジ 71	11/5	平石岩屋	雌	1～2 歳	66	52	60	25	25
H30_02_FM オレンジ 72	11/7	安房岳南	雌	3 歳以上	76	54	63	26	26
									
H30_01_FM									
									
H30_02_FM									



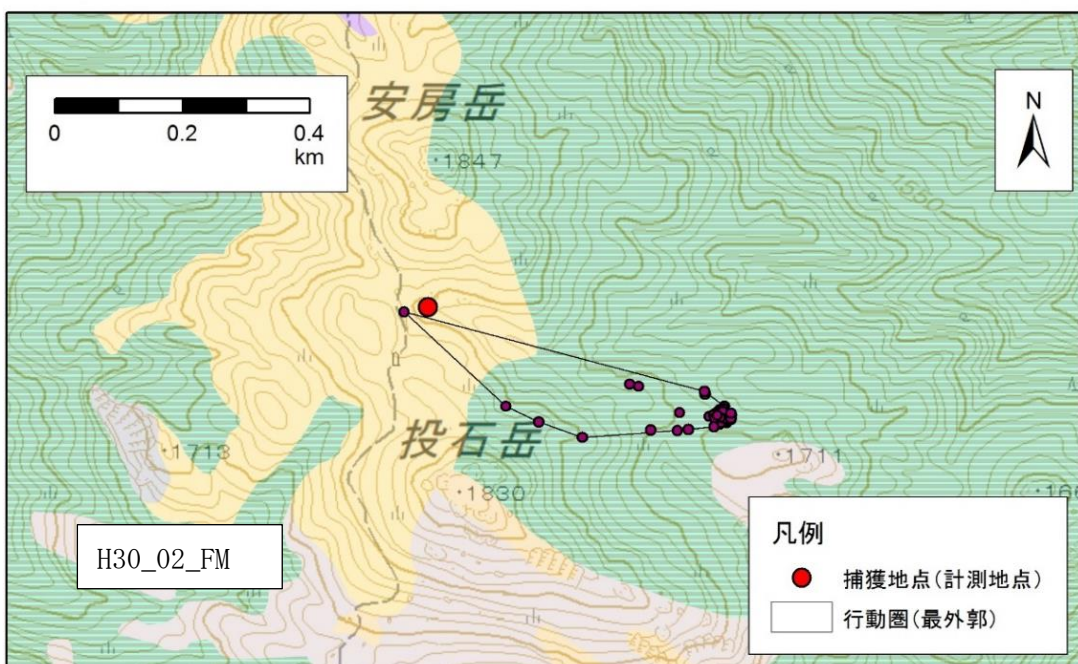
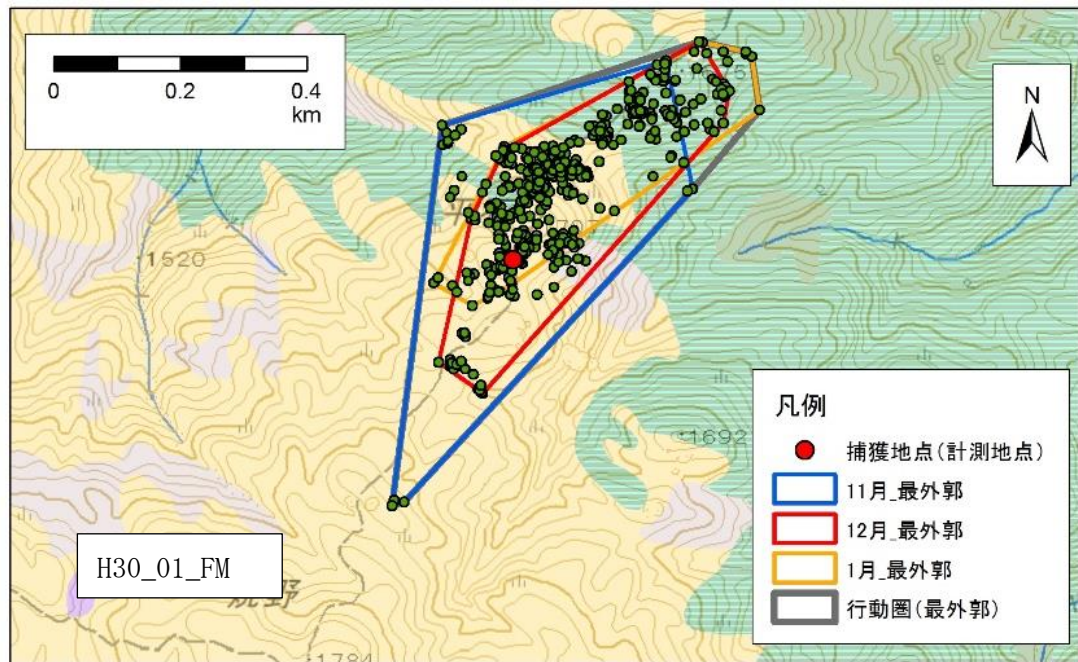
図 3 捕獲地点の位置と現存植生図との重ね合わせ

(3) GPS 首輪装着個体の位置情報追跡結果

GPS 首輪装着個体の装着日から平成 31 年 1 月 16 日までの位置情報追跡結果を図 4 に示す。

H30_01_FM は、平石の頂上付近を中心に登山道沿い約 1 km の範囲で行動していた。行動範囲の植生はヤクシマダケ群集とヒメサカキースギ群集であった。滞在頻度の高い平石の頂上付近はヤクシマダケの平均高が低く見通しが効き、移動が容易な地域であり、ここを中心に行動していると考えられる。積雪が予想される 12 月以降から、季節移動があると考えられたが、1 月に入っても 11 月とほぼ同じ行動圏で行動しており季節移動は確認できなかった。

H30_02_FM は、捕獲位置から 500m 程度東側の平坦地に移動し、11/10 以降はほとんど移動していない。首輪から 12 月以降モータリティの報告があり、すでに死亡していると考えられる。



凡例	
現存植生図	
140600ツガ群落	411200ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)
141001ヒメヒサカキスギ群集	411501カナクギノキーヒメシャラ群落
191201ヤクシマシャクナゲ・ミヤマビャクシン群集	460000伐採跡地群落(VII)
210104ヤクシマダケ群集	470300貧養地小型植物群落
270502イスノキーウラジロガシ群集	510300岩壁植生
280501タカサゴシダースギ群集	540100スギ・ヒノキ・サワラ植林
	580700自然裸地

図 5 H30_01_FM 及び H30_02_FM の行動追跡結果 (装着日～2018/1/16)